

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成22年3月25日(2010.3.25)

【公開番号】特開2009-55921(P2009-55921A)

【公開日】平成21年3月19日(2009.3.19)

【年通号数】公開・登録公報2009-011

【出願番号】特願2008-282154(P2008-282154)

【国際特許分類】

C 1 2 N	15/09	(2006.01)
C 0 7 K	14/47	(2006.01)
C 0 7 K	16/18	(2006.01)
C 1 2 N	5/10	(2006.01)
C 1 2 N	1/21	(2006.01)
C 1 2 N	1/19	(2006.01)
C 1 2 N	1/15	(2006.01)
C 1 2 P	21/02	(2006.01)
A 6 1 K	39/395	(2006.01)
A 6 1 K	31/7088	(2006.01)
A 6 1 P	25/04	(2006.01)

【F I】

C 1 2 N	15/00	Z N A A
C 0 7 K	14/47	
C 0 7 K	16/18	
C 1 2 N	5/00	A
C 1 2 N	1/21	
C 1 2 N	1/19	
C 1 2 N	1/15	
C 1 2 P	21/02	C
A 6 1 K	39/395	D
A 6 1 K	31/7088	
A 6 1 P	25/04	

【手続補正書】

【提出日】平成22年1月26日(2010.1.26)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

疼痛の調節物質を同定するための方法であって、該方法は以下の工程：

- (i) 化合物を、配列番号10の全長に対して少なくとも90%の同一性を有するアミノ酸配列を含む末梢神経系特異的ナトリウムチャンネルタンパク質(PNS SCP)と接触させる工程；
- (ii) PNS SCPの活性を検出する工程；および
- (iii) 活性を対照と比較し、対象からの活性の変化によって化合物を調節物質と同定する工程、
を包含する方法。

【請求項2】

PNS SCPが配列番号10の全長に対して少なくとも92%の同一性を有するアミノ酸配列を含む、請求項1記載の方法。

【請求項3】

PNS SCPが配列番号10の全長に対して少なくとも95%の同一性を有するアミノ酸配列を含む、請求項1記載の方法。

【請求項4】

PNS SCPが配列番号10のアミノ酸配列を含む、請求項1記載の方法。

【請求項5】

PNS SCPが配列番号10のアミノ酸配列からなる、請求項1記載の方法。

【請求項6】

PNS SCPが組換えタンパク質である、請求項1記載の方法。

【請求項7】

PNS SCPが真核細胞で発現される、請求項1記載の方法。

【請求項8】

真核細胞がXenopus卵母細胞である、請求項7記載の方法。

【請求項9】

真核細胞がニューロン細胞またはグリア細胞である、請求項7記載の方法。

【請求項10】

真核細胞がPC12細胞である、請求項7記載の方法。

【請求項11】

真核細胞がチャイニーズハムスター卵巣細胞(CHO)である、請求項7記載の方法。

【請求項12】

化合物がさらにPNS SCPに対する結合性を試験される、請求項1記載の方法。

【請求項13】

PNS SCP活性がイオン流活性である、請求項1記載の方法。

【請求項14】

(ii)の工程がグアニジウム流アッセイによって行われる、請求項13記載の方法。